

理科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて

ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
観察、実験の過程やそこから得られた結果を適切に記録する力を身に付ける。	既習の内容や生活経験を基に、問題を見いだしたり根拠のある予想や仮説を発想したりする力を身に付ける。

	児童・生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第3学年	・ノートに実験結果や考察を丁寧に記録することが難しい児童が多い。また、植物や昆虫の体のつくりなどに関する名称について、時間が経つと忘れてしまうなど十分に定着していない。ア ・各単元で覚えるべき用語、学習内容が確実に定着していない児童や、生活経験が乏しい児童が見られる。また、既習内容や生活経験を基にした予想を立てることが苦手な児童がいる。イ	・実態に応じてワークシートを使用したり、ノートに記録する時間を十分に確保したりする。様々な名称については、タブレット端末を活用することで繰り返し学習内容に触れ、学びを定着させる。ア ・単元の導入時に、簡単な遊びや実験などを行い、経験をさせてから問題を見いだしたり根拠のある予想や仮説を発想させたりする。また、学習の内容と生活の場面などを結び付けることで、指導内容の理解度、定着を高める。イ	通年 通年	・ノートの書き方をパターン化し、問題や予想をきちんと書き、実験結果を丁寧にまとめるよう指導した。これを繰り返すことによって、見通しをもてるようになった。また、プリントでの復習やタブレット端末での繰り返し学習を通して、学びを定着させることができた。ア ・単元の導入で学習問題をつくるにあたり、身近なことから疑問を見付ける活動を取り入れた。また、観察や実験では、児童全員が取り組める環境を整えた結果、自らの課題として主体的に取り組むことができた。イ
第4学年	・丁寧にノートに記録することが難しい児童が多い。また、実験器具の名称や正しい使い方が十分に定着していない児童がいる。ア	・実態に応じてワークシートを使用したり、ノートに記録する時間を十分に確保したりする。実験器具については、授業の中で一人一人が十分に器具等に触れる時間を保証できるようにする。ア	通年	・ノートに記録する時間を十分に確保することで、予想・実験・結果・考察の流れをおさえることができ、内容の理解が深まった。また、一人一人が器具等に触れながら実験をする時間を確保したことで、実験器具の名称や正しい使い方の定着につながった。ア

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について

- 3年：ロイロノートを活用して、一人一人に合った図や写真を提供し、思考する活動を行う。観察カードにまとめる際にそこで得た情報を活用することで、学びを深めていく。【重点：個別】
- 4年：植物の観察では、観察カードだけでなくタブレットで写真を撮りためておくことで、四季の変化による植物の変化を記録できるようにする。【重点：個別】
- 5年：ペアや小グループでの意見交換の場を取り入れる。また、ロイロノートを活用し、実験・観察の様子や考察を交流し、自分の考えに生かす。【重点：協働】
- 6年：実験や観察の結果をタブレット端末に記録しておくことで、結果や考察を書く際のヒントとなるようにする。【重点：個別】

■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について

- 3年：実験を行う際に、予想を立てたり実験結果から考察をまとめたりする活動の中で、生活科での学習経験を振り返ることで、すべての児童が進んで学習に取り組むことができるように工夫する。
- 4年：単元の導入時に簡単な遊びや実験などを行うことで、生活経験の差を生まず、全員が経験したことを基に問題を見いだしたり、予想や仮説を立てたりできるようにする。
- 5年：導入を工夫し、学習課題を明確にした上で、学習の見通しを示す。課題、予想、実験・観察方法、記録、結果、考察、振り返りといった流れをパターン化し、自ら課題に取り組めるようにする。
- 6年：実験を行う前に、予想や実験方法からどんな結果が得られるかと予想を学級全体で確認してから実験を行うようにする。振り返りには、実験・観察から考えられることを基に疑問に思ったことも書くように指導を行う。